

資料

長崎の天文史跡紹介

原口孝昭(上対馬高校)

すでに御存知の方も多数あるかと思うが、長崎市にある金星日面経過観測記念碑について紹介をし、あわせてその再調査・保存を訴えたい。

この観測記念碑は長崎市中心街より北部、長崎官日で有名な諏訪の森をぬけた金刀比羅山にある。金刀比羅神社を目ざしてゆけばよく、いくつかのルートがある。この神社から脇道にそれて雑木林の中に入り、やや広くなったところに正四角錐の碑がある。これはジャンサン氏を隊長とするフランス隊のものを記念しているものであるが、長崎には更にもう一隊来ている。案内知られてないが、アメリカ観測隊でダビッドソン氏が隊長であった。これは金刀比羅山とは南北線上に位置する大平山(現在は星取山といい、無線中継所がある。)に來ている。

金刀比羅の記念碑は昭和35年県指定史跡に指定されているものであり、有名であるが、アメリカ隊についてはほとんど痕跡がないという結果であった。

この記念碑については昨年東京大学天文台から島田助手、更に今年2月に同天文台齋藤国治教授が来崎され調査された。これより前、東亜天文学会「天界」誌上に佐藤氏が神戸、長崎、横浜(特に横浜)の古記録で紹介された。しかし直接の調査は東京天文台がされたのであるが、地元からは長崎大学佐藤隆夫教授と筆者とが加わった。

1874年(明治7年)12月9日金星が太陽面上を通過するという稀な現象がみられた。水星

が太陽面上通過する現象は割合多いが、金星はめったになく、近年では、1874年、1882年に起ったのみで次回は2004年6月8日という。貴重な現象だけに天文学的意義も大きく、世界の天文学者は近代的器機で観測にあたった。この日本でも絶好の条件となり各国から遠征隊が来日することになるが、日本の社会情勢から居留地のあった横浜、神戸、長崎に上陸してきた。

このうち長崎にはアメリカとフランスから派遣されたが、前者は大平山に後者は金刀比羅山に観測場所を定めた。横浜毎日新聞の明治7年12月12日付海外雑聞欄に長崎より報知として次のように書かれている。

日本政府ニテハ本月九日ノ観星経験ノ事ニ付キ(サガレム)電信局ト(コンピラ)トノ間ニ電線ヲ新設シテ、無賃ニテ仏国ヨリ来リシ星学者ノタメニ供ヘシト今回金星通過ノ事ニ付テハ、日本政府ノ用意実ニ感佩ニ堪ヘザル所ナリ」とある。フランス隊は大成功したようであるが、アメリカ隊に関しては定かではない。観測の刻々たる結果は電信を利用して各地と交換されたはずであるが、このうちサガレム電信局がその中継の役を果たしたのではないかと思われる。しかし、その所在に関しては懸命な調査にもかかわらず定かでない。フランス隊がコンピラ山で結果を送るとすれば、アメリカ隊にも電信を利用できるようにしてあると考えてもよく、さすればその中継は社会情勢や地理的条件から長崎近辺に限られると思っている。すなわち、日本初の電信局は長崎にて

きた「大北電信」であって、海底ケーブルが陸あげされたところが当時佐賀藩領の千本（今の長崎市戸町の先小ヶ倉にあたる）であったからである。このことに関して調べるうち、長崎市の勝山小学校校庭付近で大正年代に標石が発見された。この位置は金刀比羅山と大平山（星取山）との中間地点にあたり、現在でも交通の要所にあっている。あるいは何らかの関係があるかもしれないと思われたが確証はない。当時の標石に関する新聞は金星観測記念碑に関係するものとして報じてあるが、その鑑定は誰がやったのか定かでない。この標石は県立図書館に保存してある。

更に電信電話公社にも出かけて関連事項の調査を試みたが全くサガレムなる電信局の存在はなかった。アメリカ隊の大平山（星取山）にある無線中継所も関連事項は得られてない。

金刀比羅の記念碑の建立のいきさつも調べられたが、碑文の解説は今もってなされてない。つまり、碑文の一部が判読できないところがあるからである。また、資料の保存がされていた神社の中村氏宅も崩れたため散逸してしまったということであった。昭和20年8月9日の原子爆弾投下の

際の熱風を受けたため、碑文が溶かされ、中村氏宅も崩れたものである。最も信頼すべき碑文の解説は東京大学天文台斎藤教授のところにあり、その写しは筆者がもっている。

現在の碑は風雨にさらされ文化財でありながら保存状態は悪い。聞くところでは、長崎の某市議が保存運動を展開しておられるという。近々観測実施から100年目を迎えるにあたり、その催しをやるうとの声もあがっているという。この文化財は明治初期の各国協調の成果でもあり地元でも判読できてない部分の解説や建立のいきさつ、更には碑や観測に関する資料を収集する必要がある。

調査後にも多少の情報が得られたが筆者が当地に赴任したため宙に浮いている。この読者の方々に本稿に関する資料や情報を御存知の方は御一報下さると幸いです。

連絡先

長崎市文教町1-14 長崎大学教育学部地学
教室（☎ 852） 佐藤隆夫
上県郡上対馬町比田勝 県立上対馬高校
（☎ 817-17）原口孝昭
（昭和47年9月22日受理）

昭和47年度日曜地質巡検会

回	年 月 日	地 域 ・ テ ー マ	参加者
64	47-4-23	大村市北部東彼杵町・大樽・小樽付近の地質	14名
65	47-5-21	佐賀県有田町黒髪山登山と流紋岩類の採集	30名
66	47-9-17	長崎市矢上・第三紀層の層序と長崎火山岩類の研究	31名
67	47-10-15	長崎市古賀・層序的地層の見かたの研究	12名
68	47-11-19	佐世保市針尾島・面高礫岩、火山角礫岩、玄武岩の相互関係および明星ノ鼻サヌカイト	26名